



AGULI



巻頭エッセイ もしも私の人生に図書館がなかったら
特集 データベースを使おう！

法学関係データベースのあれこれ
仮面ライダーカードについて調べてみた。
データベースで開く世界へのトビラ

特集関連記事 データベース整備の課題
図書館広報板

塩谷 直也 p.2

岡上 雅美 p.3

宮澤 淳一 p.4 ~ 5

高橋 良輔 p.6

福井 武弘 p.7

p.8

もしも私の人生に図書館がなかったら

文・絵 大学宗教部長 塩谷直也
SHIOTANI Naoya

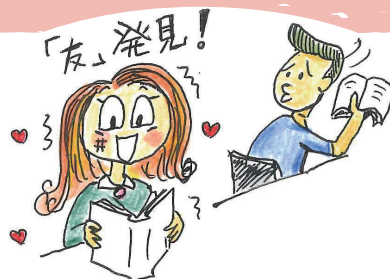
①「妄想する場所を失った」



妄想を繰り返す青春の日々を、
あたたかく図書館は受け止めてくれました。
ここにいれば「勉強なさい!」との
大人たちの声から逃れられます。
妄想の中で僕は冒険家にもモテ男にも
大リーガーにもなれました。
あの非生産的な膨大な時間が、今の私の宝です。

②「国と時代を越えた友を失った」

本に手を伸ばせば、いつだって時空を越え、
歴史上の人物と一対一で対話できるのです。
私の悩みは「海の向こうに生きる彼女の悩み」、
「1000年前の彼の祈り」は私の祈り、
そう言える「友」との運命的な出会いが
図書館には隠されています。



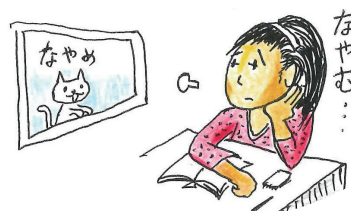
③「〇〇と仲良くするチャンスを失った」



「あの人」と一緒に遊ぶのもいいけれど、
静かな図書館で言葉少なに、
しかも小声でやりとりしながら一緒に勉強します。
沈黙の中、好きな人と図書館で一緒に過ごす喜び。
しかもお金はかかりません。
相手と図書館がもっと好きになりました。

④「避難先を失った」

悲しい時、惨めな時、
どこに行っても自分が景色の中で浮いているのがわかります。
でも、図書館では浮きません!
どんな状態の私でも図書館に入れば、
悩む姿さえなぜか「絵」になります。
図書館で、カッコつける必要はありません。



⑤「私の秘密基地を失った」



初めての町でも図書館に行けばなぜか落ち着きます。
そこにはいつも懐かしい、同じ匂いがあります。
ここは世界に点在する私にとっての「秘密基地」。
ゲートをくぐれば秘密基地の隊員が
今日もカウンターに座ってお出迎え。
さあ、ここでリセット、数冊借りて、再び出動だ!

「学校」以上に私を見守り、育ててくれたたくさんの図書館、ありがとう。今までも、そしてこれからも。



法学関係データベースのあれこれ

岡上 雅美

OKAUE Masami

本稿で紹介するのは、法学部学生や研究科大学院の院生が、普段の勉強に利用するほか、ゼミの報告、レポート、卒論、修士・博士論文等の執筆などに、あるいは、法科大学院の在生および修了生が司法試験準備に必要な情報を入手する方法である。紙幅の関係で、もっぱら初学者に向けた内容に限定し、本来は主力になりうる外国法情報はすべて割愛した。

今や、データベース（以下、DBと略称する。）情報の活用がなければ、法学学習・研究が成り立たないほど、DBは必要不可欠なツールとなっている。しかも、学部学生のプレゼンテーションやレポートに接して、しばしば気が付くのは、彼らはネット情報に大きく依存しているのだが、その情報自体が必ずしも正しくなく、フェイクであったり、偏見に基づいていたり…が、法学分野でも珍しいことではないということである。とくに実名を明かさずに公開されている情報にそのリスクが高いようである。情報の選別能力が高いとは言えない初学者には、是非とも、信頼のできるデータ管理システムに慣れ親しんでもらいたいものである。

大学図書館のサイトでも「データベース一覧」→「【目的別リスト】法令・判例を調べる」には、現在、41件のDBがある。法学関係の主要な利用目的としては、①判例検索（判例評釈検索も含む。）、②文献検索、③法令検索であろう。そしてまた、固有の法学情報ではないが、「新聞」系のDBも論文執筆等に役に立つ。それ以外に、一般に無料でアクセスできるDBも極めて有益、かつ社会での利用頻度がとくに高いものがある。

例えば卒業後なども含め、大学のDBが利用できないときに知っておくと便利であるので、併せて紹介することにした。

①から③までの要請を満たす総合DBとして、「D1-Law.com（但し、学外からの利用にはVPN接続設定が必要）」、「Westlaw Japan 法律総合オンラインサービス」がある。そして、①判例検索のDBとしては、大学図書館の「LEX/DB」が主要であるが、裁判所のサイト（http://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/search1）の「裁判例情報」は、最高裁および下級審の裁判例等が収録されている。②文献検索のDBとしては、大学図書館では上記の総合DB以外に雑誌系のDBがある。法学系に限らないが、外部サイトとして、「国立国会図書館サーチ (NDL Search) (<https://iss.ndl.go.jp/>)」が、総合的な情報収集手段として便利である。③法令検索は、いわゆる『六法』に掲載されていない法令を調べるのに不可欠である（ただし、私は授業で毎年、理由を付したうえで力説するのだが、学生・院生の普段使いは、紙媒体の書籍『六法』が絶対によい。電子データは上級者向け）。大学図書館でもいくつもがあるが、外部サイトの「電子政府の総合窓口 (e-Gov) の法令検索 (<https://www.e-gov.go.jp/law/>)」がよく利用されている。

…というわけで、まずは大学図書館のデータベース一覧にアクセスして、どんな種類のものがあるのかを眺めてみよう。締め切り間際にバタバタとアクセスして、うまく行かずにパニックになることがないように。

（法務研究科教授 刑法）



仮面ライダーカードについて調べてみた。

データベース体験教育の試み

宮澤 淳一

Miyazawa Junichi

レポート課題の多さで有名な総合文化政策学部には「メディア文化概論」という1年生の必修科目がある。履修生は演奏会、演劇、美術展などの「体験レポート」を次々に書かなくてはならない。

2017～18年度にこの科目を私が担当したときに、図書館のデータベースを試用する「データベース体験レポート」を追加した。作成要領はこうだ——「大学図書館のデータベース（オンライン）のみを活用し、以下の言葉を調べ、結果を報告する。それは何か、いつ生まれた言葉・概念・現象・商品・事業等か、どのような歴史をたどったのか、今の状況はどうか、今から見たら何がわかるか、など」。

用意した「言葉」は10種類。学生番号下1桁の数字に一致する番号の「言葉」が指定される仕組みだ。2018年度は以下のとおり——(1)『いかすバンド天国』、(2)インベーダーゲーム、(3)『夕やけニャンニャン』、(4)『およげ！たいやきくん』、(5)キャンディーズ解散、(6)ソノシート、(7)ダイヤルQ2、(8)『東京ラブストーリー』、(9)ポプコン、(0) レーザーディスク。どれも1970～90年代日本の文化や社会現象を反映したトピックで、リアルタイムの資料にあたらないと把握しきれない。そこで、新聞各社の記事検索(最低2紙)とジャパンナレッジ Lib(各種百科事典や用語集)の利用を義務づけた。データベースがいかに精確で有用かを体験してもらうためだ。

授業中、私はパソコンの画面を映写し、実際に図書館サイトからそれぞれのデータベースにログインして、検索の様子を見せた。加えて配付をした作成事例が右に掲げた「仮面ライダーカード」の調査レポートだ。A4判両面印刷で、オモテに実例、ウラに注釈を施した次第。

十分に仕込んだ甲斐があって、充実したレポートが次々に提出された。学生諸君はデータベースも、自分の生まれる以前の文化現象も初体験で、大いに楽しんだようだ。皆さんもぜひ、使ってみてください。

(総合文化政策学部教授 文学・音楽・メディア)

データベース体験レポート 作成事例 (裏面にコメントあり)

(x)「仮面ライダーカード」の調査(データベース) (宮澤淳一先生「メディア文化概論」メディア体験レポート)

2018年5月22日提出

青山学院大学総合文化政策学部 1711800x 渋谷 青美

開蔵Ⅱビジュアルの1985年以降の記事検索画面で「仮面ライダーカード」で検索したところ、13件が、「ライダーカード」で15件がヒットした。1970年代放映のテレビ番組『仮面ライダー』に関わるカードであること、カルビーが売り出したスナック菓子のおまけであることがわかった(『仮面ライダーカード——完全そろい』『でもまだまだ』、『朝日新聞』1997年5月14日夕刊、など)。

そもそも『仮面ライダー』とは、石森章太郎原作(漫画)による特撮テレビ番組である。現在も続く「仮面ライダーシリーズ」の第1作で、毎日放送・日本教育テレビ系列で1971年4月から1973年2月まで全98話が放映された(「仮面ライダー」の項、[デジタル大辞泉](#) [プラス](#)、[ジャパンナレッジ Lib](#))。藤岡弘ほか主演で高視聴率を獲得し、「変身ベルト」など関連商品も売れ、「一つのキャラクターを総合的に売り出す、いわゆる『マーチャンダイジング』(商品化計画)の走り」であり「成功例として語り草になっている」(『1971・仮面ライダー——ヒーロー再び』、『朝日新聞』1998年4月15日大阪版夕刊)。その商品化の代表が、カルビーの売り出した「仮面ライダーカード付きのスナック菓子」で、1972年の同社の売り上げは50%アップだったといい、カード目当てでお菓子を捨てる事件が多発し、社会問題にもなったという(同前)。

私は、スナック菓子、カードの内容、「事件」の詳細に関心を持ち、さらに調べた。[毎索](#)で「仮面ライダーANDスナック」で複合検索を試みると、井上朗『仮面ライダーチップス』懐かしい！帰ってきた『毎日新聞』1999年11月30日夕刊)がヒットした。スナックは1972年1月発売、サツマイモ味で1袋20円、おまけの「怪人カード」は546種、「ラッキーカード2枚でアルバムがもらえる方式」で「子どもたちの収集熱をあおった」そうだ。

リアルタイムの記事も調べた。[ヨミダス](#)の「明治・大正・昭和検索 1874～1989」で、「ライダーカード」と打ち込んでもヒットしなかったが、「仮面ライダー」は36件ヒットし、「仮面ライダー過熱の童心——カード集め、中味ボーイ」という記事が見つかった(『読売新聞』1972年10月9日夕刊)。それによれば、男子小学生(特に低学年)のあいだでカード集めが過熱し、団地のゴミ箱に未開封の菓子袋が一度に16個も捨ててあった事例などが記され、都の教育庁が調査に乗り出したことや、「現代の子どもたちが本当の遊びを知らないためだ」といった識者の意見が紹介されている。

その後、1993年には堤哲哉編『仮面ライダーカード』(河出書房新社)が出版され(『読売新聞』1993年11月29日付け書評)、1999年にはカード付きでスナック菓子が復刻される(『日本経済新聞』1999年11月7日朝刊、[日経テレコン21](#))といった動きがあり、かつてのブームを物語る。結局、これがトレーディングカードの原点だったということかもしれない。

データベース体験レポート
作成事例 Ver.1.1
(コメント)

(宮澤淳一先生「メディア文化概論」メディア体験レポート)

年5月22日提出
0x 渋谷 青美

聞蔵Ⅱビジュアルの1985年以降の記事検索画面で「仮面ライダーカード」で検索したところ、13件が、「ライダーカード」で15件がヒットした。1970年代放映のテレビ番組『仮面ライダー』に関わるカードであること、カルビーが売り出したスナック菓子のおまけであることがわかった（「仮面ライダーカード」完全そろい『でもまだまだ』、『朝日新聞』1997年5月14日夕刊）。

※**チェックリスト** (以下の諸点に不備があるとやり直します。返却分を下に、改訂分を上にも重ね、左上をホチキス留めし、右下に **再** と書いて再提出願います。)

データベースで参照した新聞記事のデータ。
ここでは、注を作らず、文中にマルカッコで典拠を書き込むスタイルをとっています。

- ※**チェックリスト**（以下の諸点に不備があるとやり直します。返却分を下に、改訂分を上を重ね、左上をホチキス留めし、右下に **（再）**と書いて再提出願います。）

- ☐ C1. 指定された言葉を調べているか。
- ☐ C2. 新聞 DB 最低 2 紙とジャパンナレッジを活用し、それらを□で囲んであるか。
- ☐ C3. サイテーションの技術（引用・言い換え・要約）を十二分に活用しているか。
- ☐ C4. マルカッコにソースを小まめに記載してあるか。
- ☐ C5. カッコ類の使い方が自己流ではないか。
- ☐ C6. レポート全体を複数の段落に切り分け、各段落のアタマが全角 1 字分あけてあるか。
- ☐ C7. レイアウトやフォントの種類・大きさが適切か。
- ☐ C8. 題名や自分の名前等の情報が整備してあるか。
- ☐ C9. 自分なりの問いの発見と踏み込みがあるか。
- ☐ C10. その他、不適切な箇所はないか。

通常の
レポート
では、
データベ
ース検索
の経緯や
結果等は
記さな
い。
今回はデ
ータベ
ース体験
なので、特
別です。

私は、スナック菓子、カードの内容、「事件」の詳細に関心を持ち、さらに調べた。毎索
で「仮面ライダーAND スナック」で複合検索を試みると、井上朗『仮面ライダーチップス』

※今回、いちばん大切な部分。テーマから自分なりの問いを発見し、踏み込むプロセスをとっているかどうか。
実は、これは、研究の根本的な態度です。

ちばん大切な部分。テーマから自分なりの問いを、踏み込むプロセスをとっているかどうか。は、これは、研究の根本的な態度です。

リアルタイムの記事も調べた。ヨミダスの「明治イダ」

面ライ
1972年
過熱し
都の教
だ」と
その
新聞』

※本文の途中にでてくるマルカッコ(パーレン)の中は、カッコごと、ひとまわり小さいフォントにして統一すると、読みやすくなる(これはプロの技)。ここでは本文が10.5ポイントで、マルカッコの中は10.0ポイントにしてある。気づかなくても、見栄えが違うのだ。

中味ポイ」
男子小学生
袋が一度に1
、「現代の子
いる。
ライダーカー
年にはカー

『日本経済新聞』1999年11月7日朝刊、日経テレコン21』といった動きがあり、かつてのゲームを物語る。結局、これがトレーディングカードの原点だったということかもしれない。

※レポートの本文は明朝体系のフォントを用いるのが常識です。

ゴシック体は題名等のみに使おう！

なお、**MSゴシック**は**ボールド（太字）**にすると引き立ちます。

総括をする。やや飛躍のある弱い結論です。本当は後続のカードや、同様の社会現象等を調べ、現代との関わりに調査・報告が及んでまとめられたら理想です。

(とにかく今回は、必ず1ページでまとめよう。1000～1200字が目安です。)

課題の要領——大学図書館のデータベース（オンライン）のみを活用し、以下の言葉を調べ、結果を報告する。それは何か、いつ生まれた言葉・概念・現象・商品・事業等か、どのような歴史をたどったのか、今の状況は、今から見たら何がわかるか、など。学生番号下1桁の以下の用語を指定する。…(1)『いかにパンド天国』、(2)インベーターゲーム、(3)『タヤけニヤンニヤン』、(4)およげ!たいやきくん、(5)キャッシュ解散、(6)ソノシート、(7)ダイヤルQ2、(8)『東京ラプソディー』、(9)ボブコ、(10)レザーデス※今回の活用を始める主なデータベースは、新聞各社の記事検索（最低2紙）、[ジャパンラレッジ Lib](#)（各種百科事典や用語集——必ず使用!）、サイテーションの技術을駆使し、典故を必ず記す。サイテーションとは、要約、言い換え、引用の3つである。なお、今回はデータベース以外は用いない（一般図書も、インターネット各種サイトも、今回に限り、使用不可。映像等の参考鑑賞は可）。必ずカラーシートと一緒に提出する。



PressReader のトップページ

アジアへの留学が必須の地球社会共生学部では、2018年度から新たに3つのデータベースを購入しています。それらはもちろん図書館のホームページから利用できるように公開されていますので、この場を借りてご紹介したいと思います。

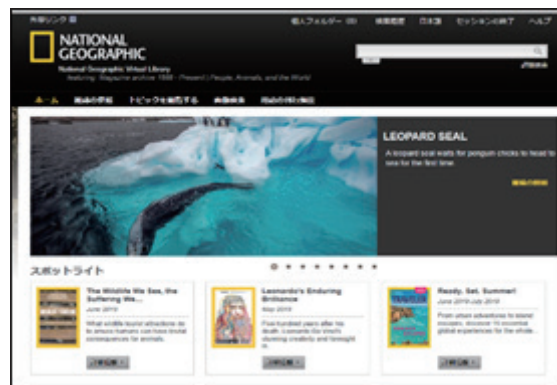
まず1番目は、世界130ヶ国、66言語、6,000紙以上の新聞・雑誌を紙面そのままのイメージで閲覧できる PressReader。欧米の主要紙はもちろん、日本では入手さえ難しい中東や南米、アフリカ等の新聞・雑誌もリアルタイムで閲覧できます。収録分野は新聞だけでなく、アートやアウトドア、エンターテインメントや趣味、ゲームまでまさに多彩。そのうえ、広告も実際の紙面イメージで閲覧できるので、海外の文化や流行に触れるのにも面白い入口かもしれません。実は国際紛争や多国間交渉などでも、それぞれ当事国独自の視点から報道がされています。同じ事件をとりあげても、西側諸国と中東諸国では内容や視点が違うなんてことは当たり前。留学前の事前学習はもちろん留学後の各国事情把握、さらには国際政治の研究やメディアの比較分析などにも有用なツールになるはずです。実は地球社会共生学部では、1年生の基礎演習でこのデータベースを使っています。

さて2番目に紹介するのは、1888年に創刊された National Geographic（米国版）です。もしかすると誌名からは、地理や地学の雑誌を想像するかもしれませんが、ところが実際は、動物の生態や前人未到の地への冒険、環境汚染や災害も含む自然の姿、そして世界各地の文化や宇宙をめぐる最先端の科学のみならず、人権問題や世界の紛争、移民や貧困問題まで「地球をとりまくすべて」を対象としている雑誌です。閲覧してまず惹きつけ

データベースで開く 世界へのトビラ

高橋良輔
TAKAHASHI Ryosuke

られるのは、世界最高品質ともいわれる写真や美しいイラストでしょう。データベースでは創刊号から最新号までのフルカラーイメージに加え、独自の検索・分析機能や画像、ビデオ、地図までも収録しているので、ちょっと英語が苦手・・・という方でも眺めてみるだけで楽しいはずです。



National Geographic のトップページ

そして最後に紹介するデータベースは、Project MUSE です。ミューズとは、ギリシャ神話に登場する文芸や学術の女神。その名の通り、世界の一流大学の出版局や学会が刊行している人文社会科学の学術誌コレクションです。学術誌ですから少々レベルは高いかもしれませんが、卒業研究や修士論文を「世界レベル」に高めたいなら、きっと役に立つはずです。ちなみに地球社会共生学部が購入しているのは、Social Science Collection 112 誌と Asian Studies Collection 35 誌ですが、歴史や文学、哲学・宗教学のコレクションもあるそうです。

データベースと聞くと、なにやら難しそうと思うかもしれませんが、実はすぐそこに世界へのトビラは開いています。是非、活用してみてください。

(地球社会共生学部教授 政治理論・国際関係思想)

データベース整備の課題

福井 武弘
FUKUI Takehiro

経営学部では、データ駆動型社会時代（Society5.0）において、必要な基本ツールである統計的機械学習などを含めたEbM（エビデンスベースドマネジメント）基礎講座を本年度から開始している。本講座は、ビジネス分野のビッグデータなど多くの経営情報から、いかにビジネスの意思決定に資する情報を引き出し、有効に活用するかを実践的に学ぶアクティブラーニング方式を取り入れている。データに基づく合理的な意思決定によりビジネス課題を解決する能力を有する人材を育成するEbMリテラシー教育が課題となっている。

教訓的な事例として、グローバル企業であるS社のケースを述べよう。S社では、経営意思決定に活用するために、「経営コクピット」と呼ばれる最先端の経営情報データベースシステムを構築している。このシステムは、全世界の経営判断に必要な情報をリアルタイムで経営陣に提供可能である。ところが、S社は経営判断を誤ったのか、経営困難に陥った。いくら優れたデータベースシステムを整備しても、経営陣にEbMリテラシーがなければ、宝の持ち腐れになる。データベースを有効に活用し、データに基づく合理的な判断ができるデータサイエンティストなどの人材教育が肝要である。

経営学部グローバルビジネス研究所では、EbMリテラシー教育に資するため、2018年からデータベース整備事業を推進している。本事業は、経営学部におけるアクティブラーニングを前提とした新経営カリキュラム開発に資するとともに、

EbM教育における活用方策を検討することを目標としている。

2018年度事業では、帝国データバンクが保有する「企業概要データ」から、主要データの一部を抽出し、2004年1月から2019年1月までの5年ごとの4時点のデータをビジネス教育用データベースとして整備している。当該「企業概要データ」は、企業の構造変化分析・活動動向分析などのための汎用性のある基礎データであり、教育実習に適した教材である。実際に整備したデータの内容は、帝国データバンク産業分類中分類に基づく業種ごとの売上高上位120社の主要経営情報である。収録項目は、企業識別情報、業績・業歴情報、業績、資本金、従業員数などの企業経営情報、株式情報、取引銀行・仕入先・販売先などの取引関係情報、企業評価情報等である。このほか、独立行政法人統計センターが提供する総務省全国消費実態調査や就業構造基本調査に基づく教育用マイクロデータファイル、市区町村別教育用標準データセットについて、ビジネス教育用データベースとしての活用を検討している。

今後は、整備データベースの授業での活用、学生・院生対象に研究論文等への活用を推進するとともに、ビジネス教育用データベースの拡充整備を進める予定である。また、実証的研究・教育のための基盤として、公的な経済統計の調査票情報などのマイクロデータのオンサイト利用が可能な施設の整備を計画している。セキュリティ体制が整った段階で、他学部の方々の利用も視野に入れた整備・取組を進めたい。

（経営学部教授 統計学）

本学所蔵の聖書が丸善稀観書展に展示されました



2019年10月9日～15日に開催された「丸善」創業150周年記念稀観書展「西洋の名著との出会い」に本学所蔵の「絵入り新旧約聖書」(ハンス・ホルバイン挿絵入版1538年 220.5/B53 青貴重書庫)が展示されました。

こちらの聖書はルネサンス期の画家であるハンス・ホルバイン(1497年頃～1543年)の原画による挿絵が木版印刷により施されており、日本国内では本学以外の所蔵が確認されていない貴重な聖書です。会場には聖書をはじめ近代科学、哲学、文学、芸術の名著の原書91点が展示されました。



SANDS (サンズ) による企画展示

世界食料デー 1016 キャンペーン

in 図書館(青山) 2019年10月7日～23日

昨年に続き、入口エリアにて学生の企画展示が行われました。国際政治経済学部公認団体となったSANDS(サンズ)による、図書館の利用者に世界食料デーの存在を認知してもらうとともに、途上国の飢餓の現状や食料問題に興味・関心をもってもらえればとの展示内容でした。



WFP(国際連合世界食糧計画)の活動やSANDSの取り組みに共感してくれた人にシールを貼ってもらう「レッドカップチャレンジ」も今年はさらに好評で、シールを貼るという行動を自ら取ることで小さなアクションの連鎖を実感していただけたのではないのでしょうか。

選書 Weeks

Maruzen eBook Library が提供する約60,000タイトルの電子ブックから読みたい本を選ぶ企画です。

【対象者】本学所属の学部生、
大学院生、教職員

【期 間】2019年11月1日(金)
～2020年1月5日(日)

リサイクルブックフェア

相模原キャンパス

11月25日(月)～29日(金)

平日／9:30～20:00

(場所) 図書館1階メインカウンター横

青山キャンパス

12月2日(月)～9日(月)

平日／9:30～21:00 土曜日／9:30～20:30

日曜日／12:30～18:30

(場所) 図書館3階グループ学習室B

詳細は図書館ホームページをご参照ください。

編集後記

今号の特集テーマであるデータベースは非常に便利であり、私の研究活動にとっても欠かせないツールとなっている。その一方で、図書館に足を運び、関心のある分野の書棚をみてみると、思わぬ発見があったり新しい分野に興味をわいたりもする。データベースと図書館を活用して、充実した学びをしてもらいたい。
(図書館報編集委員長 酒巻修也)

青山学院スクール・モットー 地の塩、世の光 The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院大学図書館報 “AGULI” 第107号 2019年11月1日発行
編集 青山学院大学図書館報編集委員会・大学図書館広報担当
発行 青山学院大学図書館 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

表紙写真／青山学院大学写真研究部
TEL.03-3499-1402 FAX.03-3407-4472
<https://www.agulin.aoyama.ac.jp/>